

# オーストラリア・クイーンズランド大学教員研修 《令和6年度研修レポート》

大阪府とクイーンズランド州は昭和63年の友好提携以来、青少年や教育分野などにおいて交流を行ってきました。その一環として、平成17年から府立学校の英語科教諭を対象に、クイーンズランド州内の大学が実施する英語指導法研修への参加プログラムを行っています。今年度は2名の先生方にご参加いただきました。先生方の研修報告の一部を抜粋・要約してご紹介いたします。

## 《令和6年度実施内容》

研修期間：令和6年7月22日（月）～8月9日（金）

研修内容：外国語として英語を教える教員のための英語指導法

English & Methodology for TESOL purposes (<https://uqcollege.uq.edu.au/>)

研修先：クイーンズランド大学

参加者：府立学校英語科教諭 2名

河南高校 杉田 沙也香 教諭

枚方津田高校 渡辺 千秋 教諭

費用：\* 研修費及び研修期間の宿泊費についてはクイーンズランド州が負担。

・研修費には授業料、教材費、フィールドスタディにかかる交通費を含む。

・宿泊は大学手配によるブリスベン市内でのホームステイで、朝食・夕食費は不要。

\* 渡航費、旅行傷害保険代、大学通学のための交通費、昼食費等は参加者個人負担。

研修前及び研修後の流れ

（4月）府立学校へ周知・募集 → （5月）選考（作文・面接《日・英》） → （6月）事前連絡会 →

（9月以降）公開授業

## 《大学でのTESOL※研修について》 ※TESOL：英語を母語としない人に英語を教える英語教授法

- 教師中心ではなく、生徒を中心とする英語指導者としての心構えを学んだ。
- ただ教師が英語をたくさん使えばよいというのではなく、生徒の理解度に合わせた明確でシンプルな英語を使うことが核にあり、当初持っていたオール・イングリッシュ授業のイメージとは異なっていた。
- 1教室の生徒は最大28名まで。席のレイアウトも日本とは異なり、授業内容や生徒のニーズにより様々である。※例：Horseshoe / アイコンタクトを取りやすい半円状、Island / グループごとに集まる、等、対話が生まれやすいような工夫がされている。
- 参加者同士で模擬授業とフィードバックを行うPeer Teachingにより、授業で学んだことを実践した。
- ICQ (Instruction Checking Question) の重要性を知ることができた。ICQとは、活動の指示をした後などに、生徒が正しく理解しているかどうかを確認するための質問である。
- 授業で使えるアプリなど、デジタル教材が効果的に活用されている。※例：WORDWALL、Quizizz等
- テキストの選択方法や効果的な導入の仕方について学習した。

## 《クイーンズランド州の学校訪問》

- Fortitude Valley State Secondary College : ブリスベン市内にある新設の州立高校。市民の教育に対する意識も高く、ボランティアで多くの社会人が専門分野で生徒と交流をする「メンターシステム」を導入し、生徒は将来的な社会における自分の役割を理解しやすくなっている。日本での導入には課題があると思われるものの、アイデアとしてはとても実践的で良い。
- Helensvale State High School : ゴールドコーストにある伝統ある州立高校。広大な敷地で、建物は科目や用途ごとに分かれており、ダンス・劇、農園や技術・工作専用の場所もある自然にあふれたキャンパス。日本語の授業があり、日本文化がきっかけで日本語を勉強する生徒が多い印象。埼玉には姉妹校があり、日本の高校生との交流があることが、日本を身近に感じてもらえている一因ではないかと感じた。
- Helensvale State High School : 伝統校ということもあり、学校の雰囲気や規律に統一感があった。また、日本と違い、30年以上同じ学校で勤務している教員も多いため、職場を自分のホームのように考えており、愛校心に溢れている点が素晴らしい。

## 《ホームステイ》

- ホストファミリーはサモアからの移住家族。会話や食事を通してサモアの歴史や文化を学んだり、日本料理を作って日本文化を共有する良い機会になった。食事は平日は朝夜、土日も3食ほぼすべて提供された。部屋は個室でトイレや洗面所は共有。現地は冬で朝夜は冷え込みが激しく、暖房はないが毛布を借りることができた。屋内は土足だが、現地購入した暖かいスリッパを使用。洗濯は週に2,3回。明るく会話好きな家族で、アットホームな雰囲気で快適に過ごせた。

## 《今後に向けて》

- オールイングリッシュの授業の実施に向けて、指示用の英語と生徒の理解度に合わせた英語を使うようにしたい。
- コンピュータ上でできるゲームやアプリを頻繁に授業に取り入れ、遊びながら単語を覚えたり作文をしたりする機会を作りたい。
- 可能な限りで机の配置を列並びではなく、ペアワークやグループワークをするとき等、アクティビティに沿って変えたい。
- 単純に日本語での指示を英語化するだけでなく、本研修で学んだテクニックを随所に盛り込みながら効果的な授業展開に努めたい。

-----  
※来年度も本事業を行う場合は、令和7年4月頃にお知らせする予定です。参加については是非ご検討下さい。

## 《問い合わせ先》

〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎37階  
大阪府府民文化部都市魅力創造局国際課 (クイーンズランド州 教員研修担当)  
TEL : 06-6210-9312 FAX:06-6210-9316